

協和発酵キリン株式会社

2010-12年度 中期経営計画

2010年1月29日

代表取締役社長

松田 譲

協和発酵キリン株式会社

ご注意

将来の業績見込みおよび研究開発の状況等については、現時点で入手した情報に基づき判断されたものです。

従って、実際の業績は経済情勢や為替動向等のさまざまな要因によって変動する可能性があります。

本資料中の2009年度実績は、2009年3月期通期実績(12か月)から2009年3月期4-12月実績(9か月)を差し引いた2009年1～3月(2009年3月期第4四半期)の実績に2009年12月期4-12月実績を加えた、2009年1月～12月の12か月間の実績数値を記載しております。

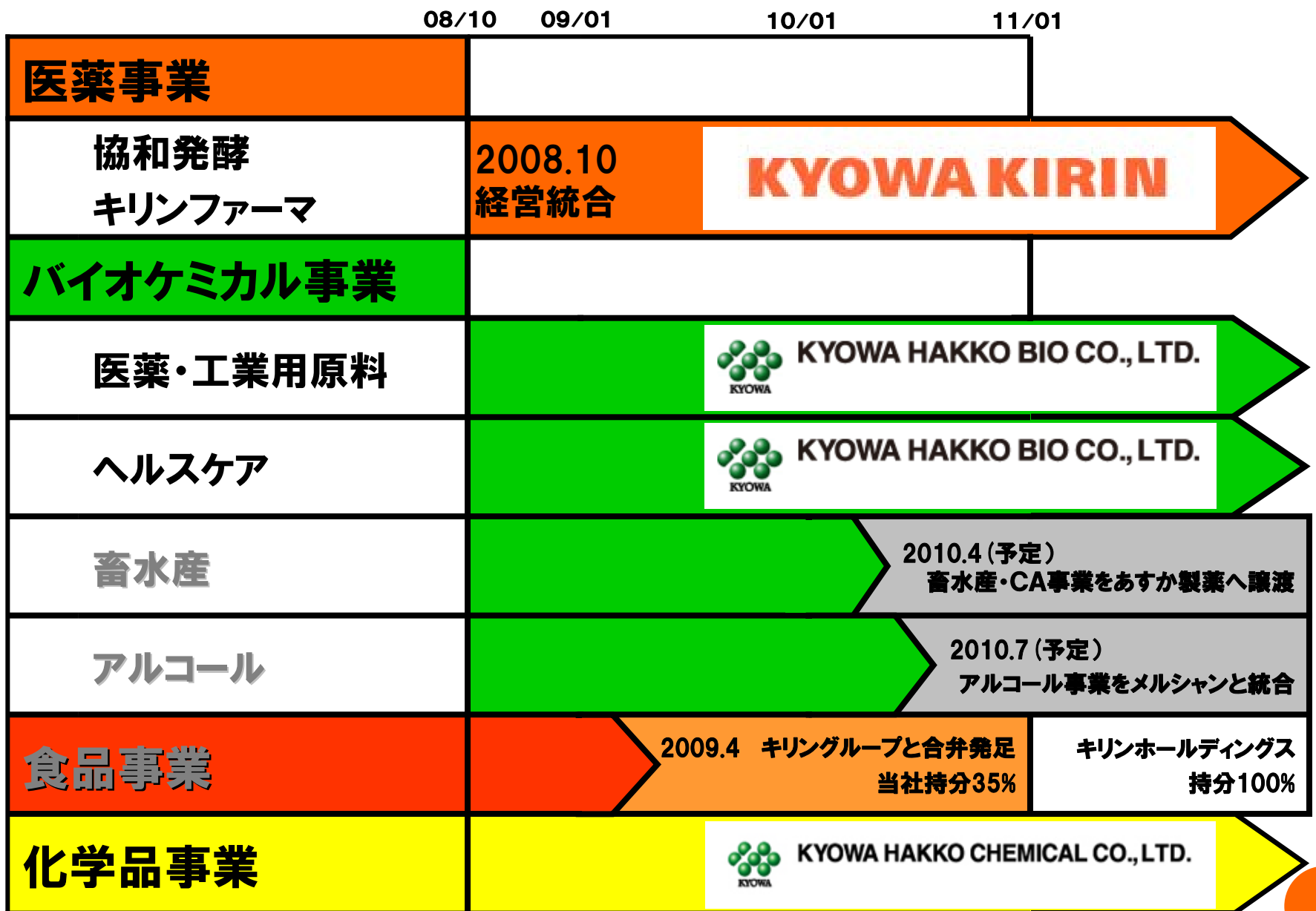
目次

	Page
>> 事業ポートフォリオ	4
>> 2010-12年度 中期経営計画概要	6
>> 医薬事業 中期経営計画	11
>> バイオケミカル事業 中期経営計画	25
>> 化学品事業 中期経営計画	27
>> 株主還元策	29

経営資源の効率的投入により スピーディーに開発パイプラインを進展させる

- 事業ポートフォリオの選択と集中
- 生産拠点の再編による収益力強化
- 世界最高水準の抗体技術ビジネスの進展

事業ポートフォリオ



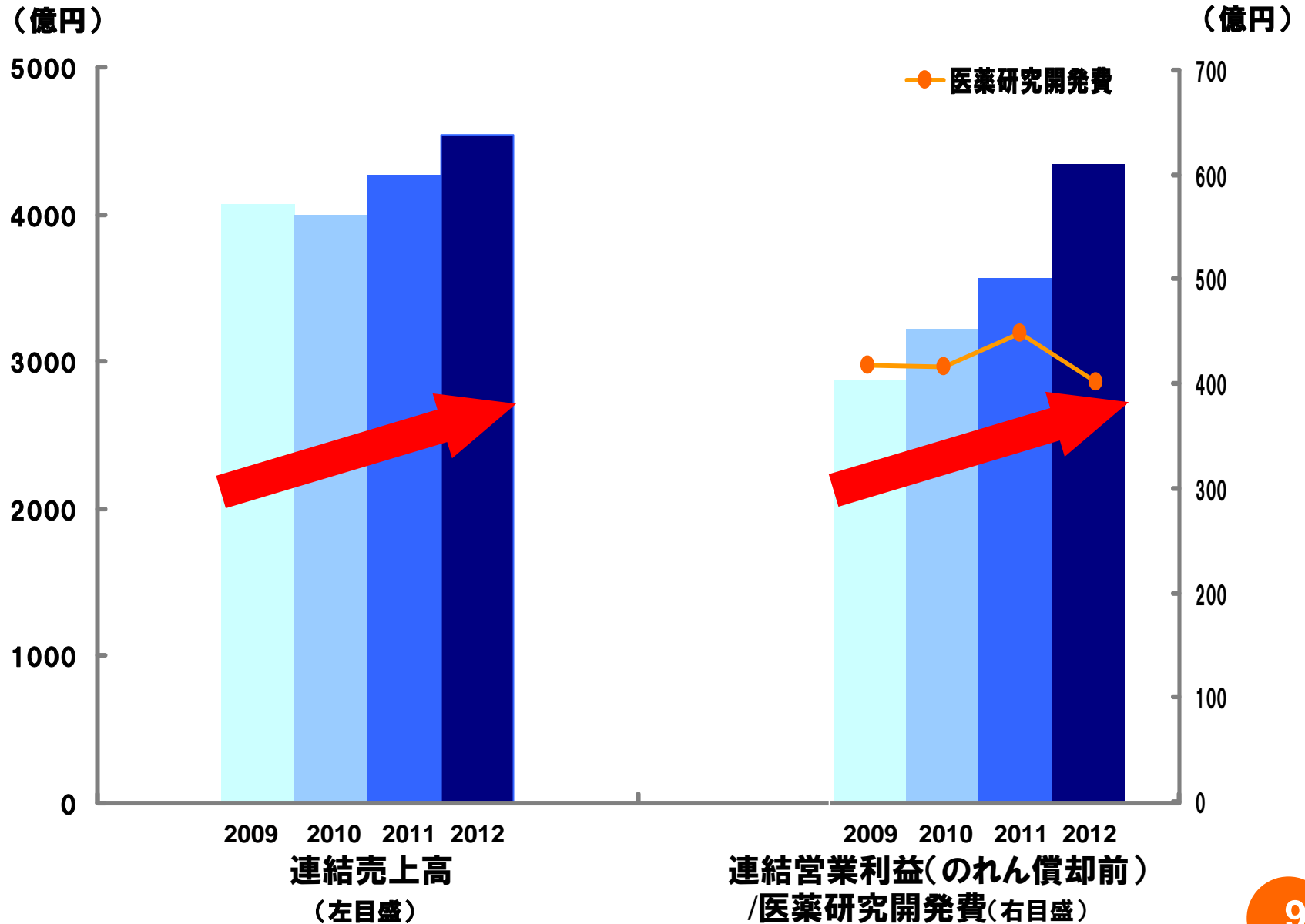
2010-12年度 中期経営計画概要

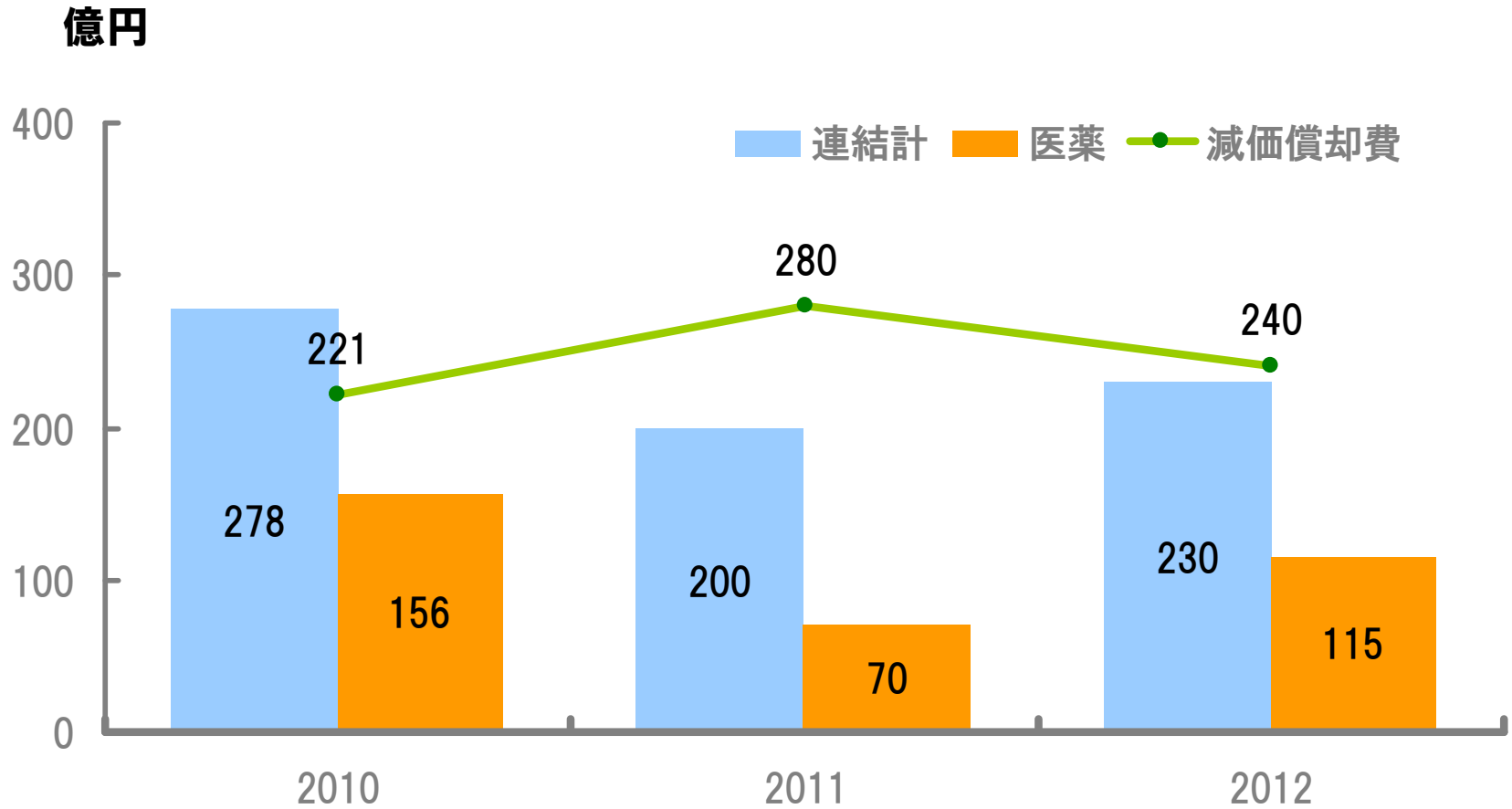
億円	2009年度実績	2012年度計画
売上高	4,070	4,540
営業利益 (のれん償却前)	403	610
営業利益 (のれん償却後)	309	517
E P S (のれん償却前)	33.97円	70.58円

配当性向は、のれん償却前利益ベースで連結配当性向30%以上を目指します

※2009年度は決算期変更のため9ヶ月決算でしたが、上記表の2009年度実績は、2009年3月期通期実績(12か月)から2009年3月期4-12月実績(9か月)を差し引いた2009年1~3月(2009年3月期第4四半期)の実績に2009年12月期4-12月実績を加えた、2009年1月~12月の12か月間の実績数値を記載しております。

	億円	2010年度 計画	2011年度 計画	2012年度 計画
医薬事業		2,050	2,150	2,250
バイオケミカル事業		840	840	880
化学品事業		1,210	1,350	1,470
その他・消去		▲100	▲70	▲60
売上高		4,000	4,270	4,540
医薬事業		415	445	400
医薬事業以外		48	50	50
研究開発費		464	495	450
医薬事業		376	395	450
バイオケミカル事業		46	65	90
化学品事業		27	40	70
その他・消去		3	0	0
営業利益（のれん償却前）		453	500	610
営業利益（のれん償却後）		360	407	517





医薬事業 中期経営計画

億円	2009年度実績	2012年度計画
売上高	2,073	2,250
営業利益 (のれん償却前)	404	450
営業利益 (のれん償却後)	318	364
研究開発費	416	400

※2009年度は決算期変更のため9ヶ月決算でしたが、上記表の2009年度実績は、2009年3月期通期実績(12か月)から2009年3月期4-12月実績(9か月)を差し引いた2009年1~3月(2009年3月期第4四半期)の実績に2009年12月期4-12月実績を加えた、2009年1月~12月の12か月間の実績数値を記載しております。

● 研究開発

- 抗体技術を核にした最先端のバイオテクノロジーを駆使して、重点領域(がん、腎、免疫疾患)における探索研究の推進と開発パイプラインの充実
 - 毎年4品目の開発入り
 - 研究拠点の集約による効率化、2010.4東京リサーチパーク新棟完成
 - ラホヤアレルギー免疫研究所(米国)等社外ネットワークの活用
- 海外開発拠点の有効活用などにより新薬の開発を加速し、複数品目における早期POCの取得
 - 治験実施地域の拡大(新興国等)
 - アジアにおける国際共同治験体制の整備・参加
 - 自社グローバル開発体制の構築
- 適応拡大を含めた製造販売承認を毎年2品目以上取得

● 生産

- 生産効率向上を実現するための生産拠点再編着手、及び外部委託の推進
 - グループ全体の拠点を活用した最適化
- 大規模な動物細胞培養タンクを擁する抗体治験薬等製造設備の稼働
 - 2010.3 バイオ生産技術研究所(高崎)内に竣工予定

● 国内営業

- 既存主力製品の市場シェアの持続的拡大
 - ESA製剤の透析期・保存期におけるシェア拡大
 - 「レグパラ」の持続的成長
 - 「アレロック」の価値最大化
- 新製品の早期市場浸透
 - アサコール、HFT-290の早期市場浸透
 - ペルマックスのスムーズな販売承継
- 営業効率向上のため営業体制の再編成を実施
 - MRの生産性向上のための組織最適化

● 海外事業

- アジア自販体制強化による売上高拡大、及び信頼性保証体制の整備
 - 拠点・商流の統合と販売品目の拡大
 - 信頼性保証体制の整備
- 欧米での新薬販売を視野にいれた体制整備
 - 開発品進捗に応じた体制整備（提携の検討を含む）

● 主力医薬品の売上（単体）

億円	2009年	2010年	2011年	2012年
ネスブ/エスポー	489	497	485	450
コニール	233	213	205	190
アレロック	267	260	280	280
パタノール	74	79	90	100
グラン/ノイアツプ	170	151	145	135
デバケン	112	110	110	110
レグバラ	68	73	80	90
ペルマックス	-	20	25	25
新製品	0	14	60	115
輸出・技術収入	180	226	220	240

※2009年は荷送りベース、2010年以降は実消化ベースで表示しています

※2009年度は決算期変更のため9ヶ月決算でしたが、上記表は2009年1～12月の実績を表示しています

※ノイアツプの販売は2010年3月より(株)ヤクルト本社に承継予定です

※ペルマックスは2010年4月よりイーライリリー社から承継予定です

【目的】

- 生産拠点の再編により老朽化・立地条件の問題の解決を図る
- 自動化推進など生産の効率化を図り、高いGMPレベルを実現しコスト競争力を強化する

【投資計画】

- 再編に伴い新棟を建設
- 投資規模は再編が完了する2017年までに100億円超を予定
- 再編に伴う固定資産臨時償却費を09.12月期に特別損失計上

➡ 合成原薬の再編

➡ 経口製剤の再編

➡ 注射製剤の再編

➡ 研究所の再編

協和発酵キリン拠点

協和発酵バイオ拠点

第一ファインケミカル新棟
(富山)
→2014年稼働

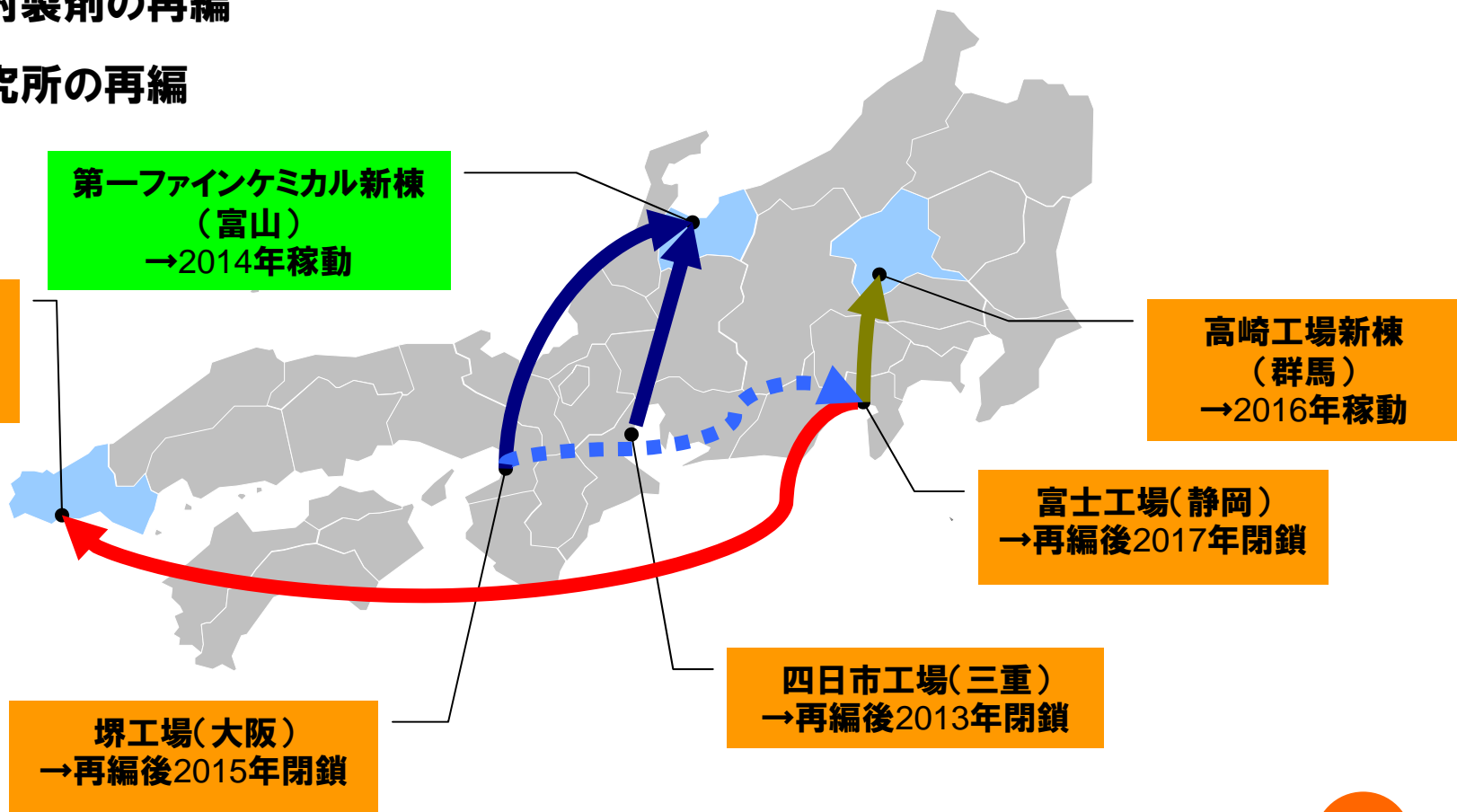
宇部工場新棟
(山口)
→2013年稼働

高崎工場新棟
(群馬)
→2016年稼働

富士工場(静岡)
→再編後2017年閉鎖

四日市工場(三重)
→再編後2013年閉鎖

堺工場(大阪)
→再編後2015年閉鎖



対象疾患

末梢性T細胞リンパ腫(PTCL)、皮膚T細胞リンパ腫(CTCL)

試験の目的

- 1) 忍容性, 第II相試験への推奨用量などの安全性
- 2) 抗腫瘍活性

用量と投与スケジュール

静脈内投与: 週1回, 4回

3名(最大6名) / 群

1	/	0.1	mg/kg
2	/	0.3	mg/kg
3	/	1.0	mg/kg

結果の要約

第 I 相試験

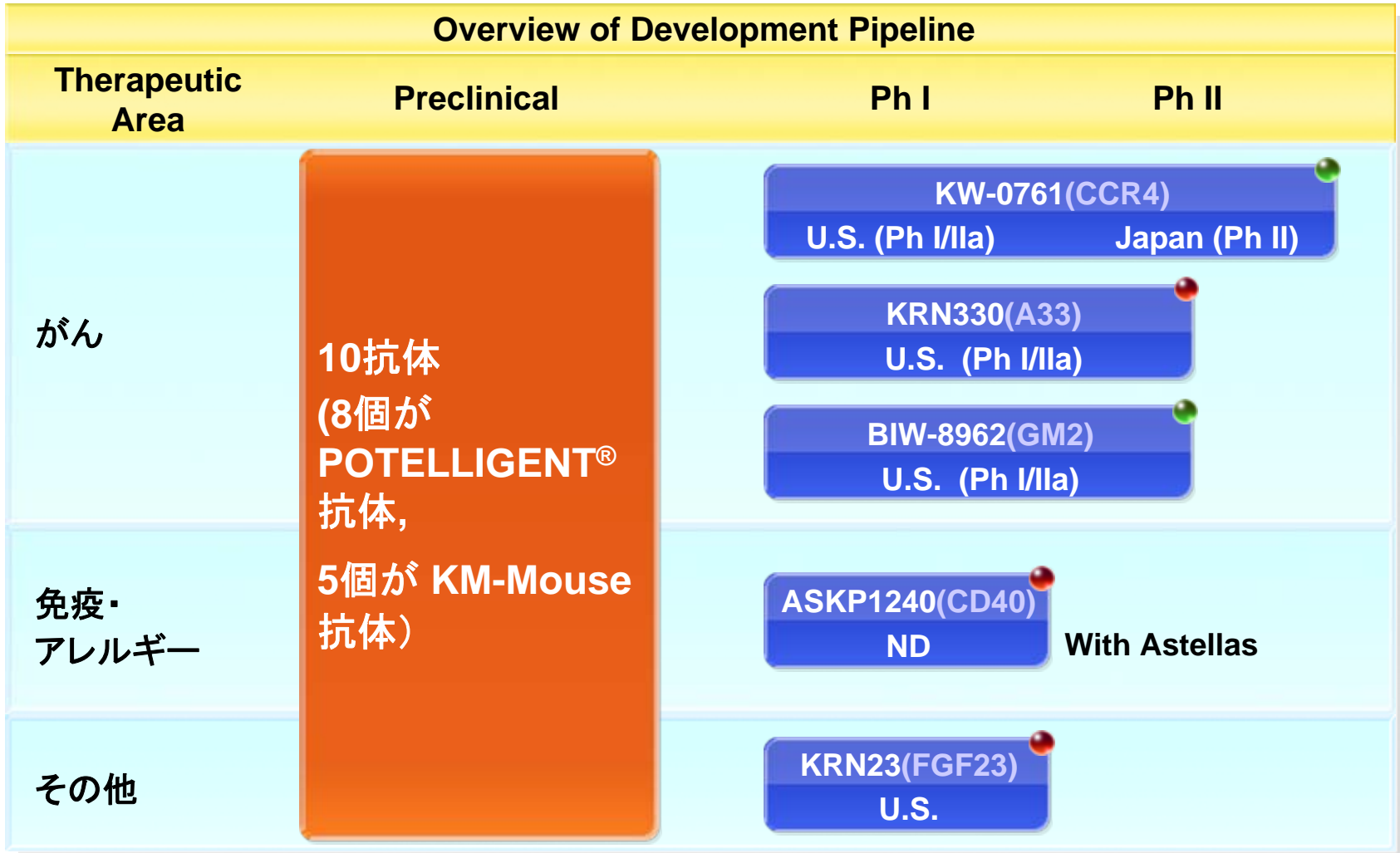
安全性: 最大投与量 1.0 mg/kg まで忍容可能

有効性: 評価可能 8 例中 3 例で有効性確認

第 II 相試験

用量 / 1.0 mg/kg の設定で第 II 相試験を実施中

● 抗体医薬パイプライン (2010年1月現在)



● : POTELLIGENT® Technology

● : KM-Mouse Technology

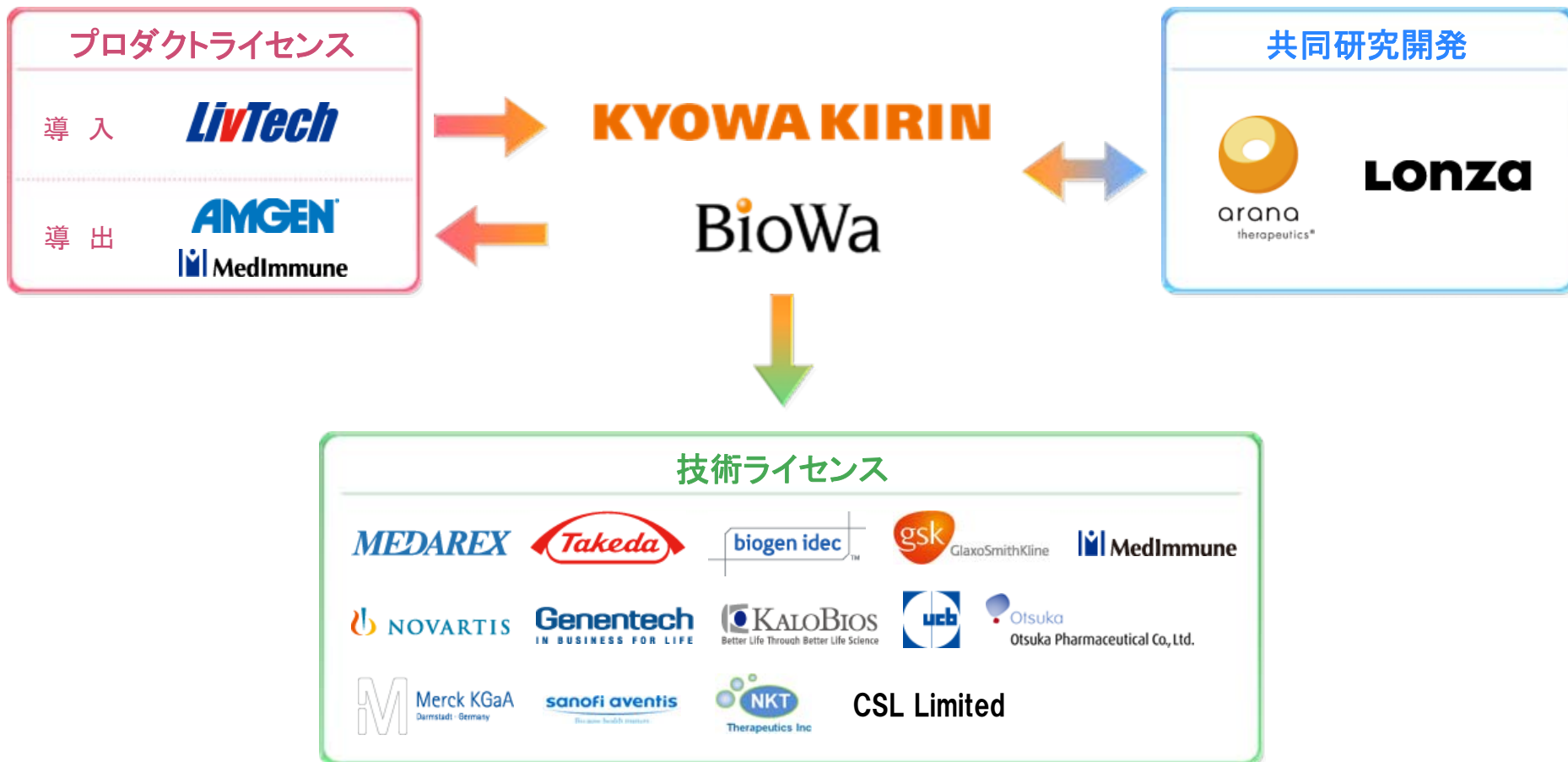
● 導出抗体医薬品 (2010年1月現在)

KYOWA KIRIN

Antibody	Target	Licensee	Reported Stage	Remarks
KW-0761	CCR4	Amgen (Except in JP, CN, KR, TW)	Ph I (AMG 761)	POTELLIGENT®
BIW-8405	IL-5R	MedImmune (Except in Japan, Asia)	Ph II (MEDI-563)	POTELLIGENT®
KW-2871	GD3	Life Science Pharmaceuticals	Ph II	
Anti-LIGHT antibody	LIGHT	Sanofi aventis (Except in Japan, Asia)	Research	KM-Mouse

● POTELLIGENT®技術関連アライアンス (2010年1月現在)


KYOWA KIRIN



※ 5個のPOTELLIGENT抗体が臨床開発中

● 自社抗体開発品の臨床試験予定

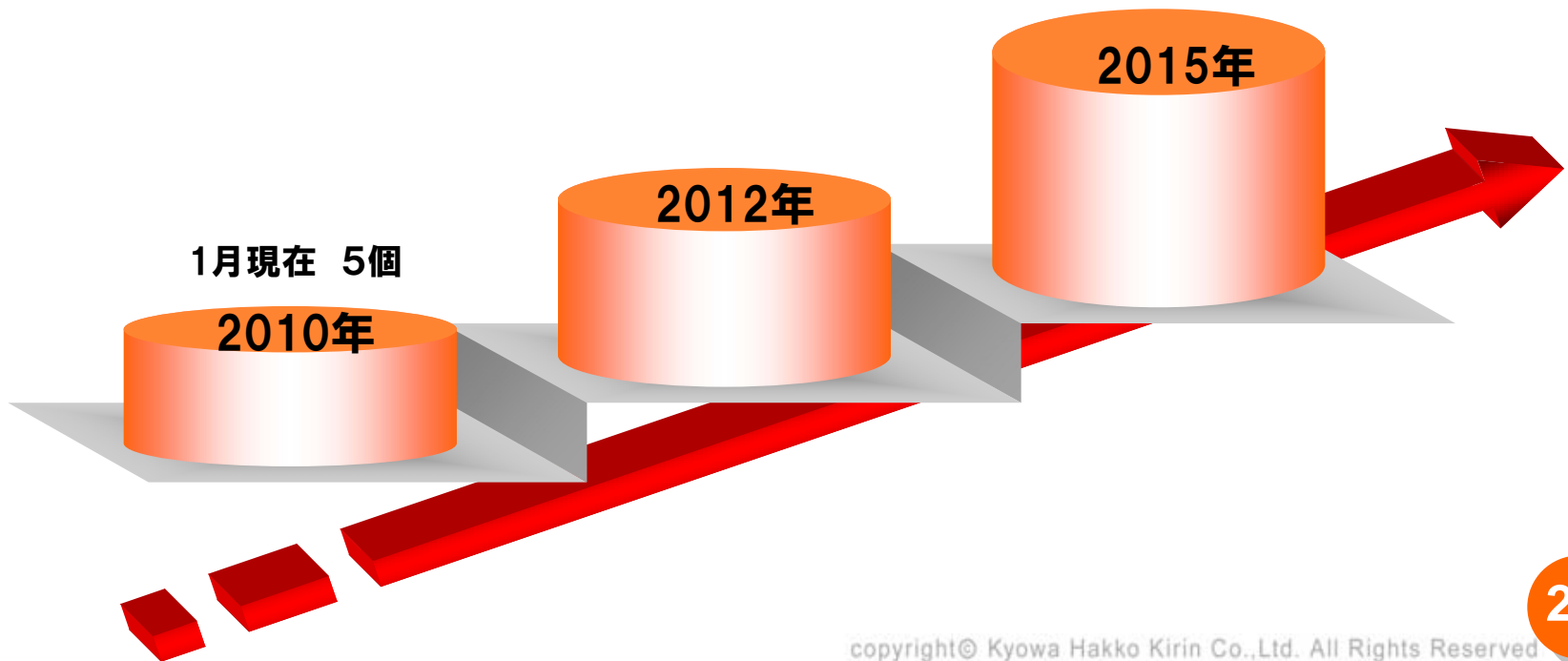
申請予定  発売予定 

領域	抗体	地域	2010	2012	2015
がん・血液	KW-0761(癌)	日	Ph. II  		
		米	Ph. I / II 		
	KRN330	米	Ph. I / II 	Ph. III 	
	BIW-8962	米	Ph. I / II 	Ph. II - III 	
免疫・アレルギー	ASKP1240		Ph. I - II - III 		
その他	KRN23	米	Ph. I - II - III 		
	前臨床抗体		   毎年2個臨床試験入り        		

将来見込みについては現時点で入手した情報に基づき判断したものです。

実際の開発状況は様々な要因によって変動する可能性があります。

POTELLIGENT® 契約抗体の臨床試験入りが今後着実に増加



バイオケミカル事業 中期経営計画

億円	2009年度実績	2012年度計画
売上高	906	880
営業利益 (のれん償却前)	45	90
営業利益 (のれん償却後)	39	84
為替	¥94/\$ ¥130/€	¥91/\$ ¥133/€

※2009年度は決算期変更のため9ヶ月決算でしたが、上記表の2009年度実績は、2009年3月期通期実績(12か月)から2009年3月期4-12月実績(9か月)を差し引いた2009年1～3月(2009年3月期第4四半期)の実績に2009年12月期4-12月実績を加えた、2009年1月～12月の12か月間の実績数値を記載しております。

● 基本戦略

- 高付加価値アミノ酸等重点品目の拡販
- キリングroupとのヘルスケア領域における連携強化
- ファインケミカル製品及び医薬品原薬安定供給のための生産体制拡充

● 増益要因

- コストダウン(技術開発等によるもの) +約20億円
- アミノ酸数量増(成長率:8%/年)による利益増 +約25億円

化学品事業 中期経営計画

億円	2009年度実績	2012年度計画
売上高	642	1,470
営業利益 (のれん償却前)	▲55	70
営業利益 (のれん償却後)	▲55	70
ナフサ	¥36,000/kl	¥52,000/kl

※2009年度は決算期変更のため9ヶ月決算でしたが、上記表の2009年度実績は、2009年3月期通期実績(12か月)から2009年3月期4-12月実績(9か月)を差し引いた2009年1～3月(2009年3月期第4四半期)の実績に2009年12月期4-12月実績を加えた、2009年1月～12月の12か月間の実績数値を記載しております。

● 基本戦略

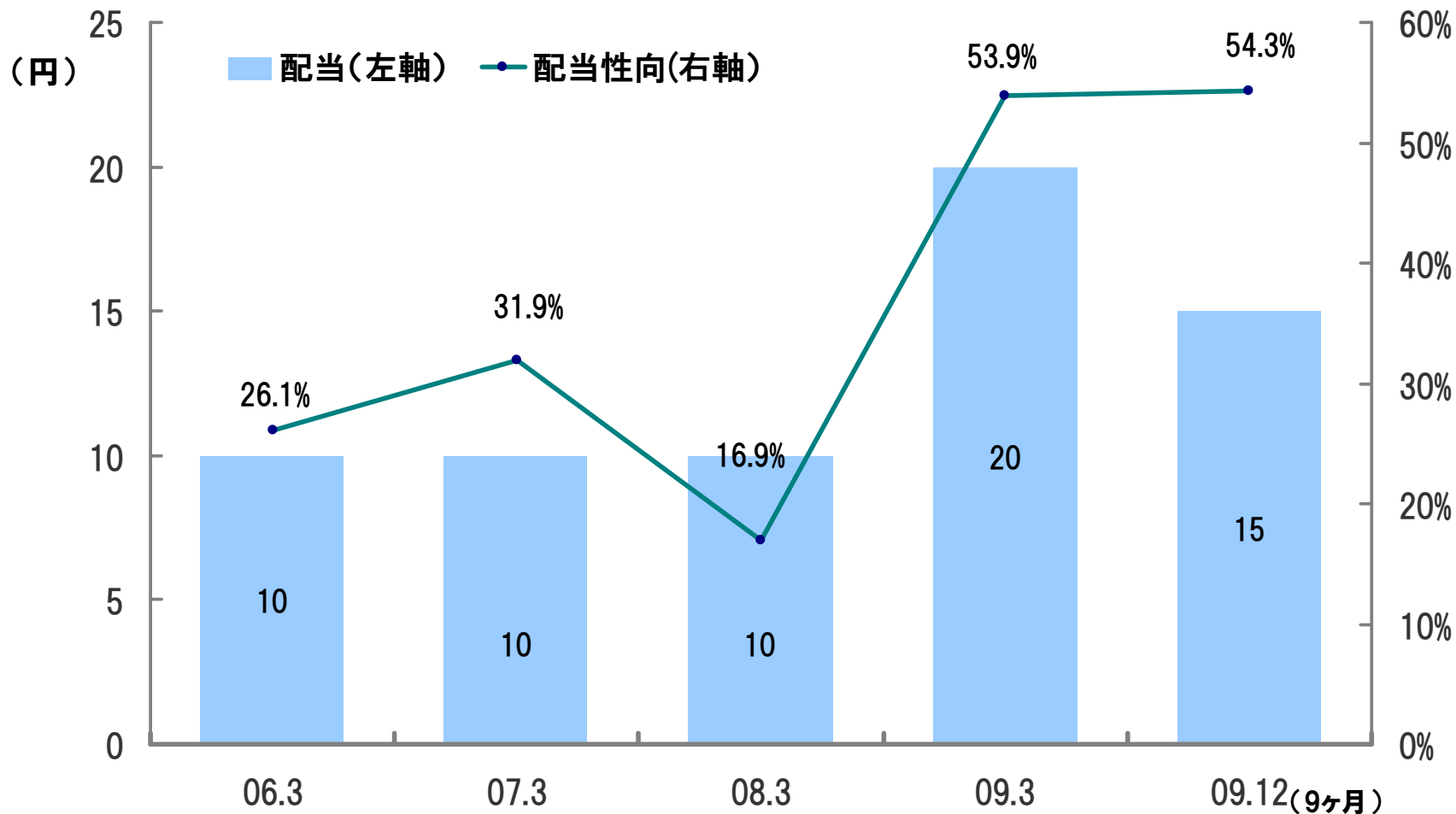
- － 基盤事業の強化による主力製品の拡販と収益の安定化
- － 環境対応型機能化学品の拡充、及びグローバル展開の促進
- － 安全・安定操業体制の充実

● 増収増益要因

- － 世界的な景気回復による化学品需要増に伴う販売数量増加
- － 当社の強みである環境対応型機能化学品の拡販
- － 原燃料価格高騰に伴う製品価格の改定
- － 連結子会社のセグメント変更(その他事業⇒化学品事業)

株主還元策

当中期経営計画においても、のれん償却前利益ベースにおいて連結配当性向30%以上を目標とします。



当社直近5カ年の配当額と連結配当性向(のれん償却前利益ベース)の推移

今中期経営計画のポイント

- **経営資源の効率的投入により、スピーディーに開発パイプラインを進展させる**
- **今中計期間後半以降に自社新薬の欧米上市を確実なものにする**
- **開発パイプラインの進展に応じて欧米での販売体制整備を進める**

KYOWA KIRIN

本資料のお問合せ先

協和発酵キリン株式会社

コーポレートコミュニケーション部 03-3282-0009